

# 横浜市記者発表資料

令和8年1月8日  
横浜市保健所健康安全課  
港南福祉保健センター生活衛生課

## 食中毒の発生について

横浜市内の飲食店で食中毒が発生し、横浜市保健所は令和8年1月8日（木）14時25分に、飲食店の営業者に対し、営業禁止処分を行いましたのでお知らせします。

現在、詳細な原因については調査中ですが、患者の症状はいずれも軽く、既に全員が回復しています。

### 1 経過

令和8年1月5日（月）10時30分頃、飲食店利用者から横浜市保健所に、「令和7年12月29日（月）に横浜市内飲食店を利用した後、複数人が胃腸炎症状を発症した。」旨の連絡があり、直ちに調査を開始しました。

患者の検便からノロウイルスが検出され、本日、当該施設で提供された食事を原因とする食中毒と判断しました。

### 2 原因施設

施設名称	(株)せんざん
施設所在地	横浜市港南区港南台3-17-4
業態	飲食店営業
営業者	横浜市港南区港南台3-17-4 株式会社せんざん 代表取締役 榎本 正勝

### 3 発症状況（1月8日（木）現在）

喫食関係	喫食日	12月27日（土）～29日（月）
	利用者数	12月27日（土） 182人、12月28日（日） 172人、 12月29日（月） 170人
患者関係	初発日時	12月28日（日）8時
	患者数	20人（10歳未満～90歳代） 内訳 男13人 女7人
	主な症状	腹痛、おう吐、下痢、発熱

※いずれも軽症、入院者なし。

### 4 調査の状況

- 患者20人は、令和7年12月28日（日）8時から12月31日（水）15時にかけて、腹痛、おう吐、下痢、発熱等の症状を呈していました。
- 患者の検便の結果、患者3人からノロウイルスが検出されました。
- 患者の症状及び潜伏時間が、ノロウイルスの特徴と一致しました。
- 患者の共通食は当該施設で提供された食事に限られ、他にノロウイルスによる感染の要因はありませんでした。

裏面あり

## 5 原因と措置

原因食品	当該施設で提供された食事（調査中）
病原物質	ノロウイルス
措置	1月8日（木）14時25分に営業禁止処分を行いました。 なお、当該施設は1月7日（水）夜から調理・提供を自粛しています。

※参考（12月27日（土）～29日（月）に患者が喫食した主なメニュー）

内容
前菜（安納芋のゴマ豆腐、梅水晶、小松菜とじゃこのお浸し）、ゆでかに酢、刺身（マグロ、ソディカ、赤海老）、茶碗蒸し、和牛しゃぶ鍋、伊勢海老焼き、揚げ物（海老、さつまいも、ピーマン）、握り寿司（マグロ、ブリ、海老）、お吸い物、デザート（ミルクレープ、オレンジ、栗きんとん大福）など

## 6 検査状況（1月8日（木）11時現在）

（市衛生研究所等で実施）

検体	検体数	検査結果
患者便	13人分	3検体 ノロウイルス検出 4検体 隆性 6検体 検査中
調理従事者便	13人分	検査中
食品（参考品）	3検体	検査中
ふきとり	14検体 (作業台、冷凍庫取っ手、トイレ等)	検査中

## 7 呼びかけ

当該施設を利用した後に消化器症状（おう吐、下痢等）がある方は、医療機関を受診しましょう。また、最寄りの区福祉保健センター生活衛生課又は横浜市保健所感染症・食中毒緊急通報ダイヤルにお申し出ください。

【平日8時45分から17時】

次のURLを御参照いただき、「各区の福祉保健センター生活衛生課（食品衛生担当・医務薬務担当）」に御連絡ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/hokenjo/gyomu/ku.html#syokuhin>

【上記以外の時間帯（夜間・休日）】

以下の「横浜市保健所 感染症・食中毒緊急通報ダイヤル」に御連絡ください。

横浜市保健所 感染症・食中毒緊急通報ダイヤル 電話：045-664-7293  
※ オペレーターが受付し、内容に応じて担当職員から御連絡させていただきます。

横浜市内の食中毒発生状況（今回発表分を含まず）

別添資料あり

期間	件 数	発症者数	死 者 数
令和7年1月1日～12月31日	35件（速報値）	306人（速報値）	0人
昨年同期（令和6年1月1日～12月31日）	37件	400人	0人

お問合せ先

横浜市保健所健康安全課長	竹澤 智湖 Tel 045-671-2442
港南福祉保健センター生活衛生課長	荒木 こだち Tel 045-847-8443

# ノロウイルス対策

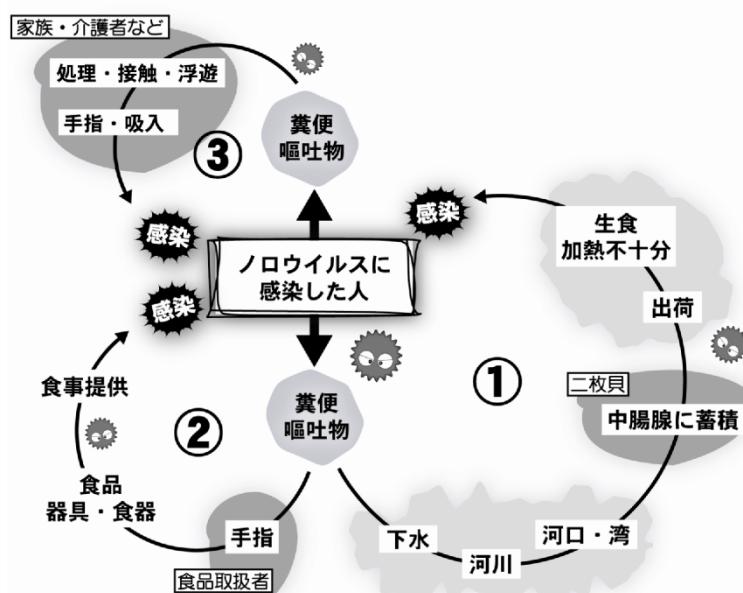
## ノロウイルスとは？

ノロウイルスは、感染力が強く、乳幼児から高齢者まであらゆる年齢の人に急性胃腸炎を起こすウイルスです。

下痢やおう吐など風邪のような症状があり、1～2日で回復しますが抵抗力が弱い乳幼児や高齢者では重篤になることがあります。

ノロウイルス患者の治療に効果のある薬剤や有効なワクチンは今のところありません。自覚症状がなくなってからも1週間から1か月間ウイルスの排せつが続くことがあります。

## ノロウイルスはどこから感染するの？



### 感染症

③ ふん便・おう吐物感染ルート  
ノロウイルスに感染している人のふん便やおう吐物の処理時に感染する場合。  
処理後に、乾燥して浮遊したノロウイルスを吸い込んで感染する場合。

### 食中毒

① 二枚貝等感染ルート  
(汚染された二枚貝等による感染)

中腸腺にノロウイルスが蓄積されたカキや、シジミのしょうゆ漬け等の二枚貝等を生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合。

② 食品取扱者感染ルート

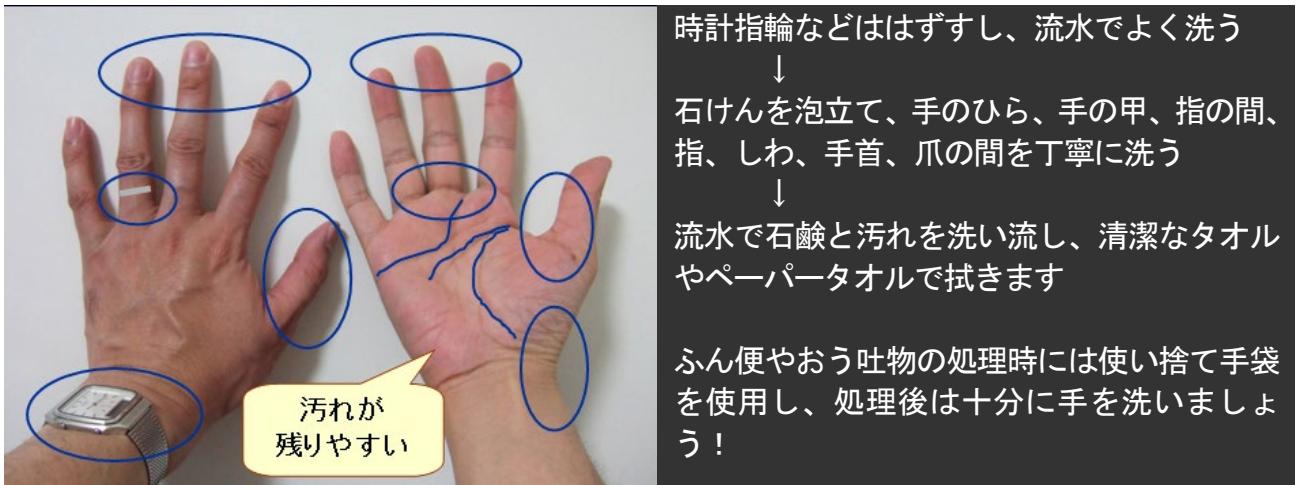
食品取扱者がノロウイルスに感染し、その人を介して汚染された食品を食べた場合。

生ものや加熱調理品など、食品の種類に関わらず食中毒の原因になります。

感染してもおう吐や下痢を発症しない場合があります（不顕性感染）。不顕性感染でも、感染者のふん便には多くのノロウイルスが含まれていますので、気づかぬうちに感染を拡大させてしまいます。

# ノロウイルス対策には何をすればよいの？

- ◆ 加熱 85~90°C 90秒以上の加熱でノロウイルスの感染力は失われます。  
食材や、調理器具、布巾など加熱できるものは加熱で対策！！
- ◆ 手洗い 調理の前や、トイレの後、汚れたものを触った後は手を良く洗いましょう！！  
ノロウイルスはアルコールや逆性石けんが効きにくいため、洗い流すことが重要です。



- ◆ 次亜塩素酸ナトリウムによる消毒（ノロウイルスには、エタノールや逆性石けんは効きにくいため次亜塩素酸ナトリウムを使います）  
調理器具は洗剤で十分に洗浄し、0.02%次亜塩素酸ナトリウムで浸すように拭きましょう。  
ふん便やおう吐物を片付けるときには、処理に使用したペーパータオル等は0.1%、処理後の床は0.02%の次亜塩素酸ナトリウムで消毒しましょう。

		希釈濃度（使用時の濃度）	
		0.02%	0.1%
製品の塩素濃度	1%	50倍 水1ℓ + 原液 20mℓ	10倍 水1ℓ + 原液 110mℓ
	5%	250倍 水1ℓ + 原液 4mℓ	50倍 水1ℓ + 原液 20mℓ
	6%	300倍 水1ℓ + 原液 3.3mℓ	60倍 水1ℓ + 原液 17mℓ
	12%	600倍 水1ℓ + 原液 1.7mℓ	120倍 水1ℓ + 原液 8.4mℓ

めやす・・・市販の塩素系漂白剤は5~6%が多い。ペットボトルのキャップ1杯は約5mℓ。

## ◆ 従事者の健康管理

下痢やおう吐の症状がある場合には、食品を直接取り扱う作業は避け、他の人への感染を防ぎましょう。ふん便やおう吐物を片付ける時には、使い捨て手袋やマスクを使い、使用後は密封して処分することで二次感染を予防しましょう。

【参考】おう吐物処理方法の映像（横浜市保土ヶ谷区作成 YouTube の動画）

YouTube トップページより

実践で学ぶおう吐物処理

検索

